荒尾市立府本小学校　校長便り　№９４

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和８年５月１日(金)

《雑感》「大人を試す子ども達」

私は毎日校舎内を散歩します。（暇だからじゃないので、お間違えの無いように。）その時、違和感を覚えることがあります。言葉で表すことは少々難しいのですが、そうですねぇ、端的な言葉では、「相手によって態度を変える」ということですかねぇ。子ども達は何をしているのか？　私が思うに「大人を試している」のではないでしょうか。どこまでなら許してくれるのか、どこまでやったら叱られるのか、そんなことを測っているような気がします。大人の指導や価値観にブレがあると、そこを巧妙についてくる感じです。

子どもが何かをおねだりしたとします。親は「ダメ」と却下します。そこで子どもは他に手に入れる方法は無いかと考え、祖父母におねだりするのです。親と祖父母では、接し方が違うのは当たり前といえば当たり前です。子ども達はそこをうまくつくのです。これと学校現場での「試し」の行動が重なるかどうか分かりませんが、もしそうだとすれば我々はぶれない価値観と言動を意識しなければなりません。子どもに接する大人はそうなければなりませんね。誰もが同じ視点で子ども達に接することで、本当の成長に繋がるのだと、私は思います。

また、「愛情」と「甘やかし」について考えてみる必要があるようです。「スマホやタブレットをねだられた、だから誕生日に買ってあげた。」（子どもの安全確保のためにキッズ携帯を持たせることはあると思います。）子ども達はそれを使って多くの情報（悪いものも含めて）を得ています。我々大人は、本当にそれが必要なものかどうかを判断せねばなりません。愛情は必要ですが、甘やかしは禁物です。本人の為にならないだけではなく、保護者の皆様を含めた、他者にも影響が出ます。客観的判断が必要です。

教え子に声をかけられた！

光の森へ行く時に必ず寄るガソリンスタンドがあります。ガソリンだけでなく、洗車やその他のサービスが充実しているガソリンスタンドです。そこで、給油中に起きた出来事です。アルバイトの店員さんが給油に利便性のあるサービスの加入を紹介してくれました。あまり時間もないので「今日は結構です。」と断りました。それから数秒後でしょうか、同じ店員さんがまた話しかけてきました。「すみません、もしかして以前、南ヶ丘小学校にいた先生じゃありませんか？」「…!?、どなた？」「澤田先生ですよね、僕達が3年生の時に、担任の先生の代わりに教えてもらいました。○○○です！」「思い出した！○○○、元気しとったか？今何歳になった？」「19です。今年成人式です。」「あれから12年か～、早いな～、みんな元気か？」こんな具合に、懐かしい話に花が咲きました。

当時、私は主幹教諭として勤務していて、授業もしていましたが、担任の先生がお休みされた時などに、担任代理として学級に入ることが多く、この子もそんな出会いをした子でした。一緒に活動した時間は6カ月程度でしょうか。それでもこうして覚えていてくれて、12年経ったにも関わらず声をかけてくれたのです。教師冥利を感じた瞬間です。かなりエネルギーを費やした担任代理でしたが、逃げずに向き合った結果、「だから教師はやめられない！」と思えた時間でした。

シリーズ「自分を語る」＃９４

さて、2日目の研修を終え、研修員チェさんと国際通りへ。

国際通りは、那覇市の県庁近くにある約1．6㎞の通りの名称です。戦後の焼け野原から目覚しい発展を遂げたこと、長さがほぼ1マイルであることから、『奇跡の1マイル』とも呼ばれているそうです。沖縄県で最も賑やかな通りであり那覇最大の繁華街です。という訳で、チェさんも私もアルコールは嫌いではありませんし、チェさんは韓国の伝統楽器の太鼓のプレーヤーでもあるため、蛇皮線、三線に興味を示され、「三線の生演奏」をやっている店に行こうということになり、お店を探しました。

結構あるものですね、国際通りにはそういう店が数件ありました。お店に入って頼んだのは、勿論、オリオン・ビール です。私は沖縄最後の夜だと思い、結構飲んでいましたら、チェさんは真剣に演奏に聴き入っていました。私は、オリオン・ビールから泡盛、つまみは島らっきょ、ミミガー、海ぶどう、豆腐よう…、すっかり出来上がり、くつろいでいると、チェさんは「もう一軒聴きに行こう。良い店を紹介してもらったから。」と、1枚の名刺を見せてもらいました。その名刺に書かれているお店への案内は当然私です。酔いも覚めますよねぇ。

国際通りは飲食店も多いのですが、お土産店も多いです。琉球ガラスを一つ買って帰ろうと思いお店を探していると、通りのあちこちに“ハブ酒”が売ってあります。梅酒を作るようなガラス瓶に数頭のハブ…。しかも口をわざわざ開けてある…。ホントだ！　牙が長い！　すっかり酔いが覚め、またまた「どこかにハブが隠れているｰ？」と訳の分からないことを考えながら、国際通りを歩くオッサンズ。沖縄はどこに行ってもハブがついてくるのかな…等と考えていると、目的地へ到着。「さぁ、飲みなおそう。」しかし、やはりチェさんは演奏に聴き入り、私は沖縄の郷土料理で一杯。ゆったりした時間が流れていくと思いきや、チェさんは地元の人と仲良くなって、地元の人と踊り始めました。

「サワダサンモキテクダサイ！」「え～～～っ」

沖縄の民謡と指笛が気分を盛り上げ、私も見様見真似でやっちゃいました。2日目の夜は、多国籍オッサンズを優しく包んでくれたのでありました。

沖縄を離れる日、ホテルのチェックアウトは9時頃でした。当時の熊本↔那覇の便は昼前後の便で、観光という視点で考えると不便な時間でした。それ故、ホテルでゆっくりした後、空港でお土産でも買いましょうということになりました。チェさんはどこへ行っても探しているものがありました。それは、三線 です。どうしても欲しかったらしく、最後の砦、空港 で値段を確認したのです。チェさん曰く、「安いものは音が悪い、当然、良いものは高い。今回は諦めます。」どうにかしてあげたいのは山々でしたが、流石に安いものでも万単位のお金がかかるもので、どうしようもありませんでした。そうこうしているうちに、搭乗時刻が近づいてきました。「チェさん、行きましょうか！」　私達、多国籍オッサンズはシーズンオフの沖縄を満喫し、帰路に着きました。飛行機の窓から見える沖縄の海はとても綺麗で、それを見ながら「今度は観光で来るぞ！」と誓った澤田です。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）